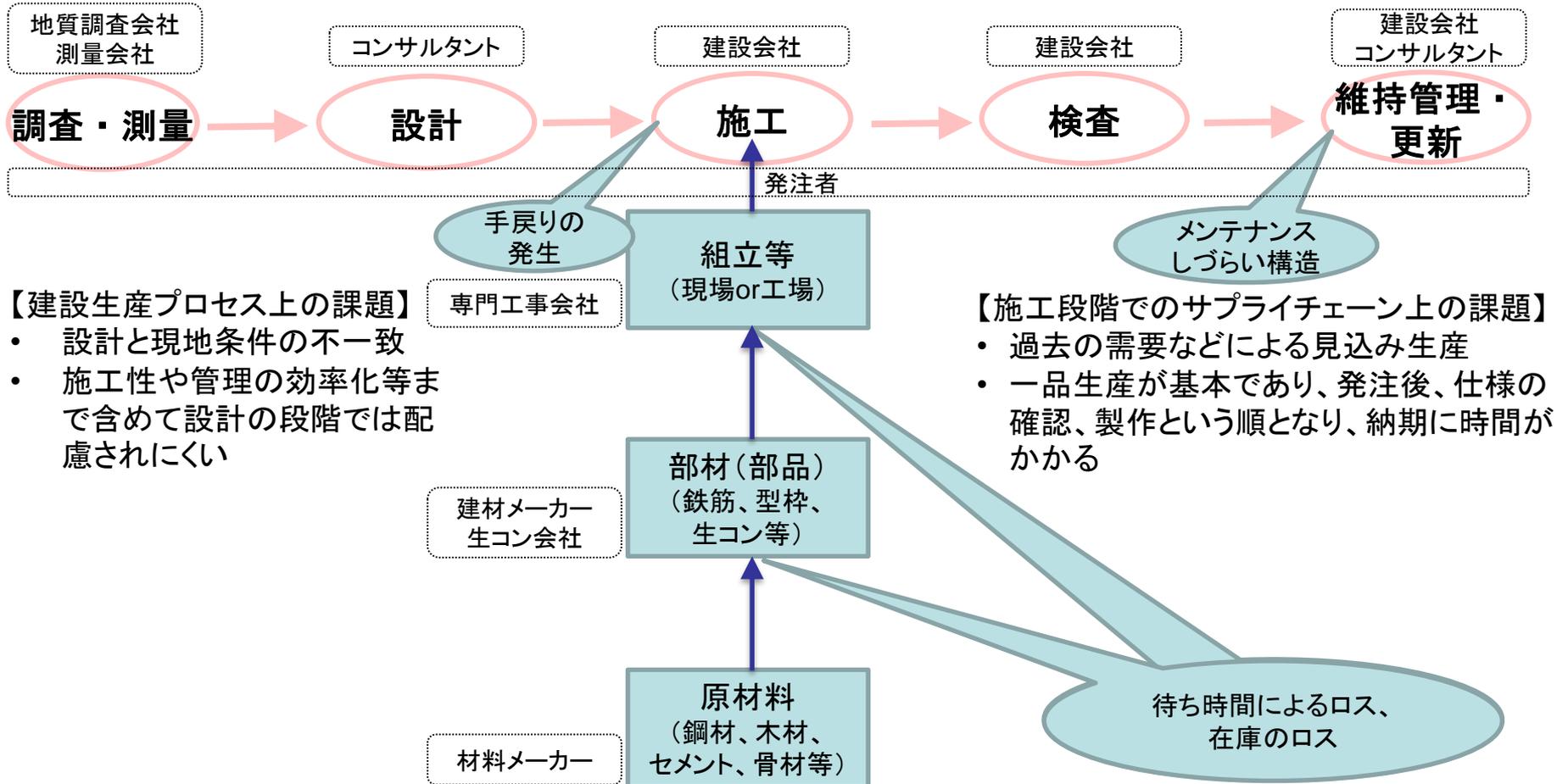


建設現場におけるサプライチェーン マネジメントの導入

課題

- 一品受注生産で、受注を受けてからの生産とならざるを得ず、待ち時間のロスが発生
- 受注を先読みして製造しても、同規格の製品が発注されなければデッドストックとなるリスク有



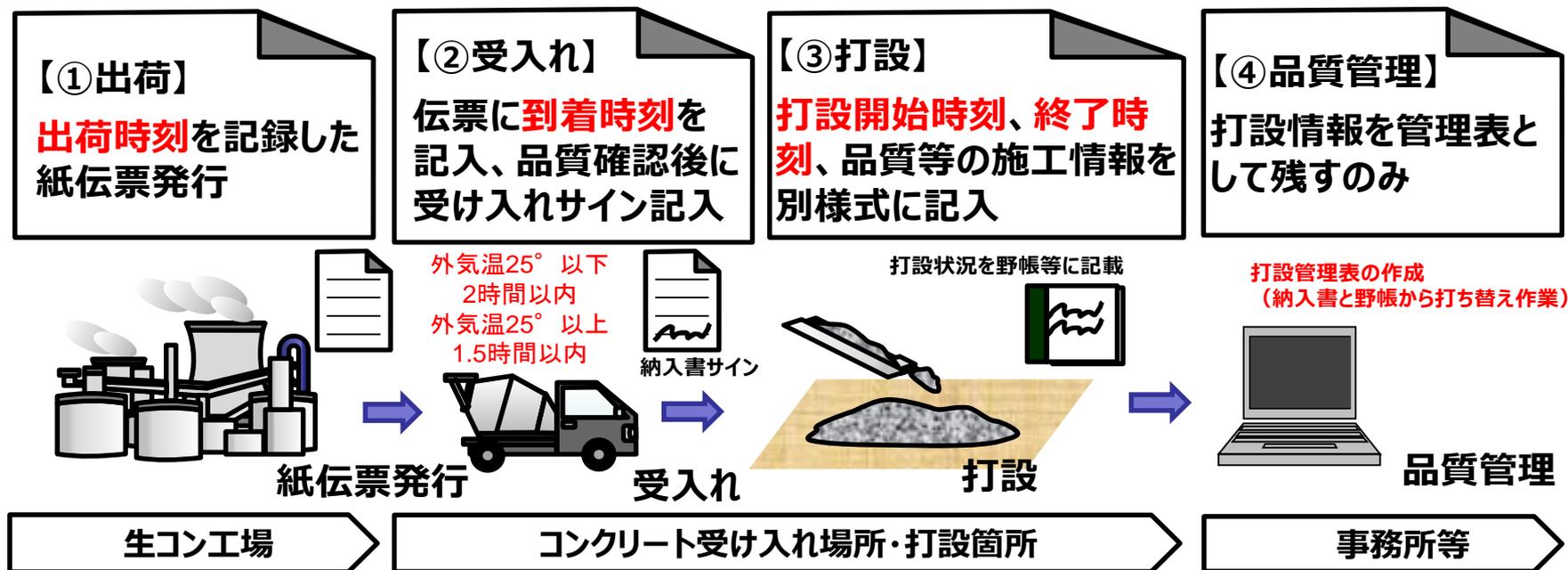
建設業界における現状(生コンの事例)

現状の課題

- コンクリートの品質等の情報については、生コン工場で発行された紙伝票により情報が伝達。結果、工事情報の共有・保管・提出等の場面で、改めてデータ入力作業が生じている
- 現場での試験結果や運搬状況がリアルタイムでやりとりできないので、現場やプラントでの状況を相互にやりとりするのに時間がかかり、状況によっては打設の手戻りが生じている

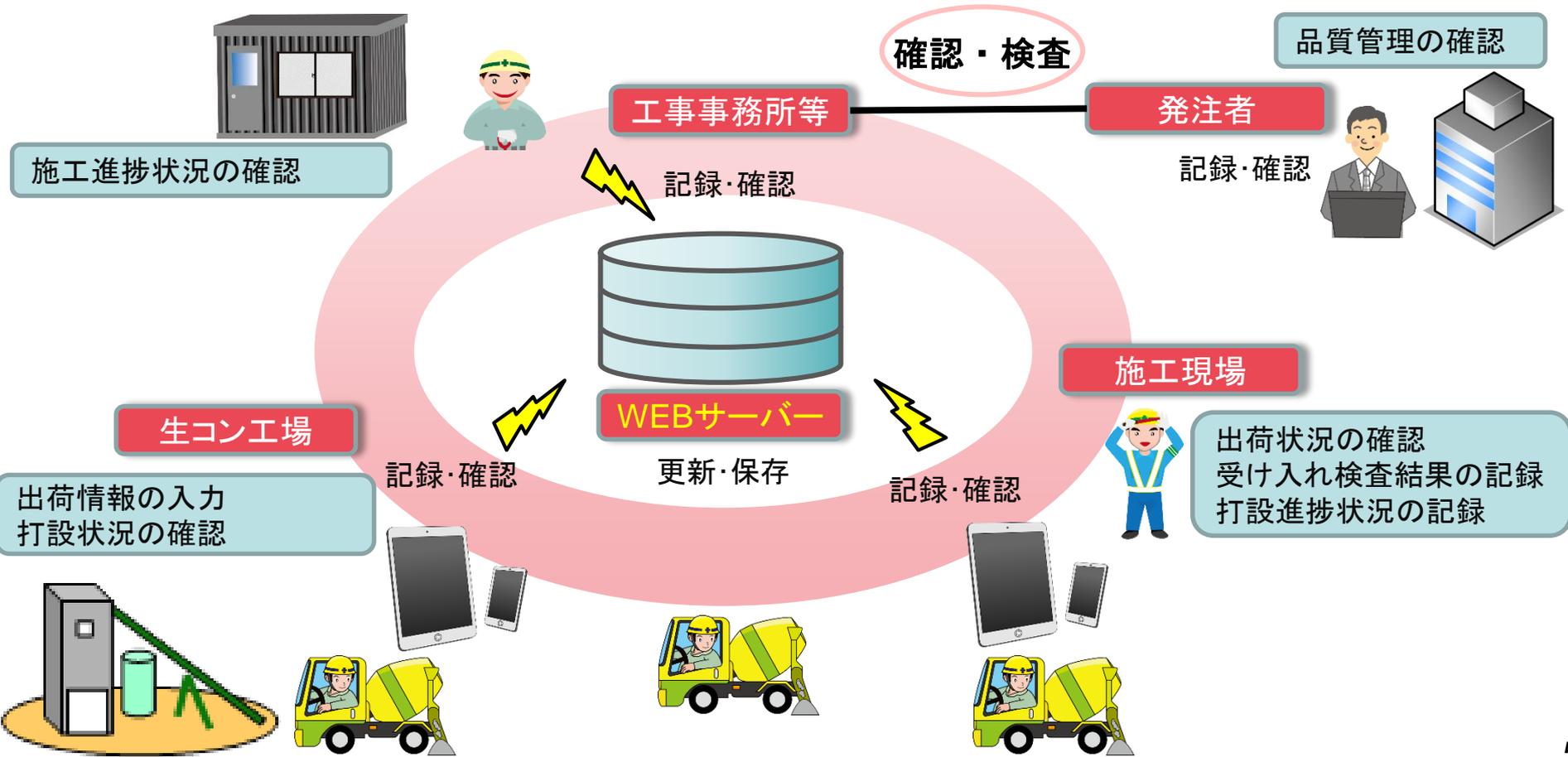
○生コン情報の従来型運用

従来



施工関連情報の電子化と情報共有のイメージ

- 工事事務所や生コン工場、施工現場などがWEBサーバーを中心とした情報ネットワークを構築し、簡便な記録・確認を可能とする。
- 生コンクリートの出荷から打設までの情報を施工担当者間でリアルタイムに共有でき、最適な搬送計画やデータ整理の効率化などの効果が期待される。



今後の取組み

- 製造側と施工者側の双方で取組める最適な運用方法検討と現場試行
 - 引き続き、双方が最適な運用となる様、調整を行う場において検討する。
 - 今年度、現場試行に向けた具体的な調整を図る。
- 試行現場において、製造側と施工者側の双方における効果を検証
 - ⇒ より具体的かつ効果的なサプライチェーンマネジメントの実現をめざす。

- コンクリートにおいて効率的なサプライチェーンを実現するために、先進事例を参考にしつつ、改善ポイントは。
- PCa製品に関して、効率的なサプライチェーンを実現するためには、どのような取組みがあるか。